

二輪車オーナー自身の意識の低さが問題!

大切な愛車を盗まれないためには、しっかりとした防犯対策が必要。これはあたりまえのことだが、二輪車では「しつかり」という言葉の持つ意味がクルマとは比べものにならないくらい重い。というのは、ボディがクルマに比べて小さく、重くても300kg程度しか車重のない二輪車は、ユニックなどで吊り上げられて運ばれたらそれでおしまい...という現実があるからでは、我々ほどのように二輪車を守つたらいいのか...実際にセキュ

リティシステムをインストールしている現場にお邪魔してお話をうかがった。

今回ご協力いただいたのは二輪車へのセキュリティ取り付け実績も数多ある神奈川県サウンドコネクション。コメントをいただいたのは中村氏だ。「大切な愛車を持って行かせないためにはまず『防犯に気を遣つていよう』ということをお願いすることです。それがチェーンロックやU字ロック、ディスクロックのような物理的にバイクを動かなくするもの、そしてこのような電気的な

セキュリティシステム。とにかく、窃盗犯に面倒臭く思わせないと。相手はプロですからね、我々がチョッと面倒臭く思うロックの解除なんて簡単にしてしまいますから、どちらか一方というよりも、物理的なモノと電気的なモノを組み合わせさせて使うことをオススメします。あとはバイクの存在を気付かせないことです。しかし、何とんでも今二輪車の盗難問題を取り巻く環境の中で一番の問題はオーナーの意識の低さ。危機感を持たなすぎですね。自分のバイクは大丈夫って人、結構いるんです」

から本体を設置するというのだから、バイクへの不正なアクセスにより発せられた警報を解除するのはかなり難しいはずだ。セキュリティの機能説明後に納車された山岡氏は「満悦の様子だったが、すかさず『油断は禁物!』と中村氏からのひと言。システムをインストールしたからといって『万全』というわけではない。やはり最終的にはオーナーが気を遣うことが一番大切とのこと。車体カバーや物理的なロックと併用することで、電気的セキュリティの効果が増すのだ!

大切なバイクを守るために我々オーナーがすべきことは?

車体へのアクセスが容易で、簡単に運べてしまう二輪車はクルマ以上に気を遣った防犯対策が必要なはず。物理的、電気的、様々な方法があるけれど、どうすればいいのだろうか。文/神津晴寿 写真/山岡和正

200Jは単方向通信だが、この5000VBは双方向通信のリモコンのため、バイクから離れた場所においてもリモコンで状況を確認できる。



今回単にインストールしたのは二輪車用の「バイパー200J」。傾斜センサーや衝撃センサー、バックアップサイレンが備わるシステム。



オーナーは車をガレージ内で保管。通常はクルマで蓋をしているが、クルマがないときや裏口のサッシからのアクセスが心配なところ。

電子的+物理的ロックの併用でセキュリティの効果をアップ

セキュリティをインストールしているのは最新のスズキ・隼。最近海外、特にアジア圏で人気が高まり、盗難率の高いバイクなのだ。オーナーの山岡氏、自宅では他に所有しているバイクとチェーンで繋ぎ、クルマで蓋をするような状態になるガレージ保管なのだが、バイクで出かけた先やクルマがない時の「防犯」のことを考え、セキュリティのインストールに踏み切った。今回インストールしたのは二輪車用のバイパー

200J。傾斜センサーやショックセンサー、バックアップサイレンを備えたシステム。本体がコンパクトなので、インストールするスペースの自由度が少なくない二輪車に最適なシステムといえる。警報は車体の傾きが変わったり、設定値以上の振動が加わったとき、そしてバッテリーが外された時に発せられる。

実際のインストール作業をしばらく見させて貰ったのだが、アツと言いつつ車種が分からなくなるくらいバラバラにされていった。ココまでバラしてさらに隠しな

から本体を設置するというのだから、バイクへの不正なアクセスにより発せられた警報を解除するのはかなり難しいはずだ。セキュリティの機能説明後に納車された山岡氏は「満悦の様子だったが、すかさず『油断は禁物!』と中村氏からのひと言。システムをインストールしたからといって『万全』というわけではない。やはり最終的にはオーナーが気を遣うことが一番大切とのこと。車体カバーや物理的なロックと併用することで、電気的セキュリティの効果が増すのだ!



バッテリーでお悩みの方にオススメしたい「Deka」

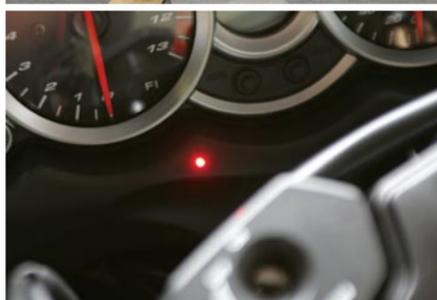
セキュリティをインストールすることで負担が増してしまうバッテリー。そこで紹介するのが中村氏もオススメ、アメリカ製の「Deka」バッテリー。装着した車ではまだバッテリー上がりを経験していないという。今回は車の純正バッテリーサイズと同じETX-12を使用した。詳しくは<http://www.deka.co.jp>をチェック!



サウンドコネクションでは、インストール作業をカーベット敷きの清潔なピットで行う。この日は最新のGT-Rも入庫していた。



システムインストールはココまでバラした状態で行われる。空きスペースが少ないため、本体の置き場が悩みどころ...とはインストーラー談。



システムの作動状態はメーターパネルに埋め込まれたLEDで確認可能。発報した場合は点滅のパターンでどんな入力があったかを知らせてくれる。

一番の問題はオーナー自身の意識 自分のバイクは大丈夫...なんてない!



サウンドコネクション 中村 泰規氏

豊富な経験とノウハウを活かしながら、常に新しいことにチャレンジしているアイデアマン。最新のセキュリティ情報を求めてアメリカやアジアを飛び回る忙しい日々を送っている。

TEL.046-263-5945
<http://www.soundconnection.co.jp>



インストーラーのヒデキ氏(右)と、オーナーの山岡氏(左)。これで安心度がアップしたわけだが、「油断は禁物!」と中村氏のひと言が...